



喜多の埜

ゆりわ団子

今月十五日に執り行われる当神社の秋祭。

このお祭りにお供えされる団子が「ゆりわ団子」です。由縁をたどれば、京都より太宰府へと左遷される菅原道真公が当地に立ち寄られた際、地元の民より献じられた団子がこの団子で、「ゆりわ」という特殊な器に盛る為、この名があります。

この「ゆりわ」はいわゆる「曲げ物」と呼ばれる器の一種で、桧の薄板を円状にし、それに底をつけたものです。木製ゆえ、老朽化により何度か新調されてきたようで、以前のものを確認しながら新しく作り直したと考えられています。このように、元となるものと、まったく同じに新しく作る事で、当時の姿をそのまま生き生きと伝えるという考え方は伊勢の神宮の式年遷宮などにもみられ、世界にも例の無い「文化を保存する一番賢い方法」とも言われています。

しかし、先の大戦の折だけは事情が違い、戦災により社殿と共にゆりわは焼亡してしまい、戦後になって神職らの記憶を頼りに作り直されました。ですので、現在のゆりわが昔のものとは本当に同じものなのかどうかという確証はありませんでしたが、今年六月に、当神社の古くからの崇敬者であられる方の自宅より、戦前のゆりわを撮影した新聞記事が発見され、その写真を見ると、現在のゆりわがまったく同じものである事が確認されました。本年も先人より受け継がれた「ゆりわ団子」は秋の祭にお供えされます。

十月の二十四節季

日本には春夏秋冬の四季がありますが、この四季を太陽の運行に基き、現在の暦とも合わせて更に細分化したものが二十四節季で、一ヶ月を二季に分けています。

この十月には寒露（かんろ）と、霜降（そうこう）という名の二季があります。

寒露とは十月九日頃から霜降までの時期で、露が冷気により凍りそうになる頃とされ、雁などの冬鳥が渡ってきて、菊が咲き始める頃とされます。またコオロギなどの秋の虫鳴き止み、涼しさが増す時期とされます。この時期は平野部では暑くも寒くも無く、天候も落ち着き、まさに「天高く馬肥ゆる秋」といった風情があり、また十月十日が晴れる確率の高い「特異日」である故か東京オリympicsの開催日ともなったともいわれています。

霜降は十月二十四日頃から十一月の立冬まで、露が冷気によって霜となつて降り始める時期とされますが、近年の温暖化の影響の為に大阪ではこの時期まだ霜は滅多に降りません。しかし、山間部の楓や蔦などの植物は紅葉をし始め、時折、寒い風の吹く日があり、これを「木枯らし」といいます。

この十月は秋を感じる季節といえそうです。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、

au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜（神主）

白江 秀知

